資料３

北海道教育推進会議高等学校専門部会（第４回）　議事録

１　日時

令和４年（2022年）８月３日(水)　10：00～12：00

２　場所

Web会議システム「ZOOM」による開催（事務局：道庁別館４階　第３研修室）

３　議事

「これからの高校づくりに関する指針」改定版（素案）について

４　会議資料

資料１－１　「これからの高校づくりに関する指針」改定版（素案）検討資料
資料１－２　「望ましい学校規模」について
資料１－３　少人数学級について
資料２　第３回北海道教育推進会議高等学校専門部会及び素案作成に向けた意見照会での御意見等について

５　出席者

○　北海道教育推進会議高等学校専門部会
間嶋委員（部会長）、篠原特別委員、野﨑委員、藤村特別委員、山田特別委員、萩澤委員、金田特別委員、金井特別委員、松岡特別委員

●　事務局
堀本学校教育局長、谷垣道立学校配置・制度担当局長
高校教育課：山城課長、岡内担当課長、田原課長補佐、小倉課長補佐、山根主査

（田原課長補佐）

●　ただ今から、第４回北海道教育推進会議高等学校専門部会を開会します。開会に当たりまして、学校教育局長　堀本から挨拶申し上げます。

（堀本学校教育局長）

●　専門部会の開会に当たり、一言御挨拶申し上げます。皆様方におかれましては、日頃から本道教育の推進に御理解、御支援をいただいておりますことに、心からお礼申し上げます。また、御多用の中御出席いただき、重ねて感謝申し上げます。

さて、５月に開催しました第３回専門部会におきましては、これからの高校づくりに関する指針の「改定の方向性」について説明させていただくとともに、素案としてまとめるに当たり様々な観点から御議論・御協議をいただき、多くの貴重な御意見をいただいたところです。

本日は、こうした御意見等を参考とさせていただきながら、事務局において作成しました「これからの高校づくりに関する指針」の素案について御審議いただき、素案作成について更に検討を進めて参りたいと考えております。

皆様におかれましては、それぞれのお立場から忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げ、開会に当たりましての挨拶とさせていただきます。

（田原課長補佐）

資料３

●　会議に先立ちまして、委員の退任に伴い、新たに委員となりました後任委員及び初めて御出席いただく委員を御紹介します。北海道札幌西高等学校校長　藤村特別委員でございます。

（藤村特別委員）
○　札幌西高等学校校長　藤村です。どうぞよろしくお願いします。

（田原課長補佐）
●　北海道高等学校ＰＴＡ連合会副会長　金井特別委員でございます。

（金井特別委員）
○　金井禅と申します。よろしくお願いします。

（田原課長補佐）
●　本日の日程ですが、このあと議事となりますが、事務局から説明させていただき、その後質疑・応答とさせていただきます。
　続いて、本日の配付資料の確認をさせていただきます。本日の次第のほか、資料１「これからの高校づくりに関する指針」改定版（素案）検討資料、資料１－２「望ましい学校規模」について、資料１－３「少人数学級」について、資料２「第３回北海道教育推進会議高等学校専門部会及び素案作成に向けた意見照会での御意見等について」です。配付資料の訂正があります。出席者名簿を御覧ください。社会貢献企業経営者の木内敏子委員は、本日都合により欠席との御連絡をいただきました。本会議の終了時刻は12時を予定しております。どうぞよろしくお願いします。それでは議事に入ります。議事進行については、間嶋部会長にお願いすることとしております。よろしくお願いします。

（間嶋部会長）
○　それでは早速議事を進めていきたいと思います。「これからの高校づくりに関する指針」改定版（素案）について、事務局から説明をお願いします。

（山城高校教育課長）
●　「これからの高校づくりに関する指針」改定版（素案）の説明に先立ちまして、前回の専門部会でいただいた意見等をまとめた資料がございますので、説明させていただきます。資料２「第３回北海道教育推進会議高等学校専門部会及び素案作成に向けた意見照会での御意見等について」を御覧ください。こちらは前回５月に開催した専門部会の中で皆様に御議論いただいた中での御意見や、専門部会開催後に実施した意見照会で、皆様からいただいた御意見等をまとめたものです。改定版指針で予定している構成ごとに皆様の御意見等を取り入れ、素案の検討を進めさせていただいております。１つ１つの御意見等については説明いたしませんが、それぞれの御意見等に対する現時点での道教委の考え方を表の右側に示したところであり、素案への反映の状況は「区分」の欄のとおりです。この件について更に御意見・御質問がある場合は、この後行う協議の中でいただきたいと思っております。
　それでは「これからの高校づくりに関する指針」改定版（素案）について、お配りしております、資料に基づき説明いたします。資料１－１を御覧ください。改定版素案の作成に当たっては、前回の専門部会で御審議いただきました「改定の方向性」でお示しした５つの構成で進めております。ローマ数字のⅠから順に説明し、それぞれ御意見等を伺っていきたいと考えております。

まずは１ページ目、ローマ数字のⅠ、「指針の趣旨等」の「１の指針の趣旨」についてですが、社会の劇的な変化や、生徒の興味・関心、進路希望等の多様化、中学校卒業者数の減少など高校を取り巻く環境の変化に対応し、未来を担う人材を育む教育機能の維持向上を図るため、これからの高校づくりに当たっての基本的な考え方と具体的な施策を示すものとしています。

次に、２の「指針改定の背景」については、「趣旨」で示したように、社会の劇的な変化が生じている中、「第２期『まち・ひと・しごと創生総合戦略』」において、人口急減、超高齢化、少子化に対応するための施策の一つに「高等学校の機能強化等」が掲げられ、地域創生における高校への期待はこれまで以上に大きく、高校の特色化･魅力化を一層推進することが求められていること、また、中学校卒業者数の減少による全道的な高校の小規模校化や国の高校教育改革への対応など、高校を取り巻く環境も大きく変化していることから、地域が抱える今日的な教育課題等に的確に対応し、未来を担う人材を育む教育機能の維持向上を図ることがこれからの高校づくりを進める上での重要な視点となっていることを示しております。

次に、３の「指針改定の適用等」についてですが、令和８年度以降の配置計画から適用することとしておりますが、実施可能な施策については、令和５年度から実施することとし、後ほど「地域とつながる高校づくり」の中で御説明しますが、圏域における協議結果の配置計画への反映については、令和９年度の配置計画以降となる場合があるとしています。

また、北海道教育推進計画の実施期間の最終年までに成果と課題の検証を行い、必要に応じて見直しを図ることとしています。指針の趣旨等についての説明は、以上です。

（間嶋部会長）

○　ただ今事務局から説明がありました「Ⅰ指針の趣旨等」につきまして、御意見・御質問等がありましたら、挙手またはZOOMのリアクションで合図を送ってください。

（間嶋部会長）

○　お気づきの点がありましたら、後の場でも受けたいと思いますので、先に進みたいと思います。それでは「Ⅱ地域とつながる高校づくり」について、事務局から説明をお願いします。

（山城高校教育課長）

●　続いて２ページ「Ⅱ　地域とつながる高校づくり」については、地域における高校の役割を踏まえつつ、高校の教育機能を維持向上するための方策等に係る基本的な考え方と施策の方向性を示しております。

「１　地域と密接に結び付いた取組の推進」についてでは、地域創生に向けた高校魅力化の手引の作成など、これまでの取組を記載しているほか、学校と地域の連携・協働をより一層推進するため、コミュニティ・スクールの導入やコンソーシアムの整備、地域コーディネーターの配置など、学校や地域の実情に応じた推進体制の構築に取り組み、社会に開かれた教育課程の実現に向け、地域の自治体や関係機関等と連携・協働し、地域の実情を踏まえた特色ある高校づくりを推進することとしています。また、ここでは、「コミュニティ・スクールの導入やコンソーシアムの構築を推進すること」を論点として設定させていただきました。コミュニティ・スクール導入等についての賛否や導入の範囲、時期、留意すべき点などについて、後ほど御意見をいただきたいと考えています。

続いて、「２　将来を見据えた地域とともに高校づくりを考える仕組みの構築」ですが、中学校卒業者数の減少に伴い、市町村単位で高校配置を行うことが難しくなっていることから、今回の改定版において、新たな取組として、通学区域とその外側にある通学可能圏域などの一定の圏域において、将来的に圏域内の高校が担うべき役割や高校の魅力化、多様な学習ニーズ

に応える高校配置の在り方等について協議を行い、その結果を配置計画に生かすことで、圏域における高校の教育水準の維持向上を図ることを記載しました。また、論点２として、「一定の圏域単位での高校配置の在り方等を協議すること」を設定させていただきました。こうした協議を行うことについて、行う場合の参集範囲、回数、留意すべき点などの御意見をいただきたいと考えています。

このほか、「３　地域連携特例校の充実」では、現在実施している、地域の教育資源を積極的に活用した教育活動を推進することや、地域連携協力校との取組、遠隔授業の配信による教育活動の充実について記載するとともに、引き続き遠隔授業における配信教科･科目の拡大や進路指導体制の充実など、配信機能の強化を進めるとともに、生徒が多様な意見、考えに触れることや協働的な活動を行うことができるよう、複数校に対して授業配信を行い、他校生徒と切磋琢磨できる環境の整備に努めるほか、入学者等の増加に向け、特例校における大学への合格実績といった学力向上の成果を道内に広く周知するなどの広報活動の充実を図り、生徒や保護者、地域の理解を深めることを示しています。ここでは論点３として、「地域連携特例校の在り方」を、論点４として「特例校等以外の小規模校への遠隔授業の配信」を設定させていただきました。論点３については、地域連携協力校や他の道立高校との連携や地域の取組を勘案した特例的扱いである再編整備の留保について重点取組期間を設けることを、論点４については、特例校等以外の小規模校への遠隔授業の配信について、御意見をいただきたいと考えています。

次に、「４　高校が所在しない市町村との連携の検討」についてですが、高校が所在しない市町村と当該市町村の中学校卒業者が多く進学する近隣の高校との地学協働など、地域の教育力の維持向上や地域創生の観点に立った連携の在り方を検討すること、また、生徒の修学機会の確保や進路選択幅の拡大に向け、高校が所在しない市町村と連携した通信教育の在り方について検討することを今回の改定版において新たに示したいと考えています。ここでは論点５として、「ＩＣＴを活用した通信教育の在り方」を設定しています。高校が所在しない市町村においても、生徒が学ぶことのできる教育環境を整備することについて、通信教育を中心に御意見をいただきたいと考えています。

地域とつながる高校づくりについての説明は以上です。論点を５つ設定させていただいておりますが、論点以外の内容であっても構いません。広く御意見をいただきたいと考えております。よろしくお願いします。

（間嶋部会長）

○　事務局から「地域とつながる高校づくり」に関しての説明がありました。これについては論点が示されておりますので、論点毎に御意見・御質問等を受けながら、最後に全体を通して、又は論点以外の部分についても御意見・御質問を受ける形で進めて参りたいと思いますがよろしいですか。

（事務局）

●（了解）

（間嶋部会長）

○　それでは、論点１コミュニティ・スクールの導入やコンソーシアムの構築を推進することに関わり、御意見・御質問等がある方は、挙手またはZOOMのリアクションで合図を送ってください。野崎委員お願いします。

（野崎委員）

○　前回申し上げましたが、地域につながるコミュニティ・スクールを広く高校でも導入していただき、地域とともに子どもたちを育てていくことが、人材育成に強くつながっていくと考えておりますので、これを１番に持ってきているところも賛成します。さらにどうしてその地域に高校が存在していくのかというところにも、この取組は大きく関わってくるところだと思いますので、是非、力強く進めていただきたいと思っております。

（間嶋部会長）

○　事務局案に賛同する立場からの御意見をいただきました。他に御質問ございますか。篠原委員お願いします。

（篠原特別委員）

○　只今の野崎委員の御意見に賛同する立場での発言です。私も地方の高校を回っている中で、地元の自治体や関係機関等と連携している学校が、地元からの応援を得て、教育課程編成のみならず様々なサポートを得ながら、規模は小さいながらも高校教育の支援を獲得し、教育活動を充実させようと努力されてきた例を沢山見ており、そのような形をより強化していけることが望ましいと思っております。指針に盛り込むかどうかということもありますが、コミュニティ・スクールは義務教育で進んでおり、高校が更に進めるということであれば、一つの自治体等の規模で小中高の一体的なカリキュラムへと発展していけるよう協議会が機能すればという期待もあります。

（間嶋部会長）

○　他に御質問ございますか。松岡委員お願いします。

（松岡特別委員）

○　特色ある高校づくりについて、地域によっては大学がありますが、私の中では高校と大学の連携はあまりなされていない印象です。地域を越えて大学の専門的な方々が高校に来て推進することで、高校教員の負担が減らせたり高校生への良い授業が行われたりすると考え、大学との連携は特色ある高校づくりの方策として有効ではないかと考えております。

　もう一点、当別高校へのコミュニティ・スクールの立ち上げに向け、コンソーシアムを立ち上げたところですが、地域の方々とこのような形式で会議をした際、どこか自分事ではなくて、何か手伝えることがあればやるよというサポート側の姿勢が多く、積極的な提案がない状態になる。おそらく会議の設定の仕方も要因だと思いますが、コミュニティ・スクールにとっても、双方向なのかサポートの立場で良いのか、どういう立ち位置になるのかを今の立場として確認しておきたいという質問になりますがいかがですか。

（間嶋部会長）

○　実は小中学校のコミュニティ・スクールについても当事者意識の醸成が課題としてあるのですが、高校のコミュニティ・スクールに関わることで事務局から見解等ありましたらお願いします。

（山城高校教育課長）

●　大学との連携については、今年度から高等学校においても総合的な探究の時間が始まり、より専門的な知識を持つ大学や企業等との連携というのも進めていかなければならないと考えておりますので、大学は地域にないところもありますが、大学は広い視点で北海道の高校生に対

して、例えばZOOMの機能を使いながら、探究学習を専門的な見地から御意見をいただければすごく助かりますので、私どもも御意見等を伺いながら進めていきたいと思っております。

地域の方々の意見の取り入れ方についてはケースバイケースですが、コミュニティ・スクールにおいては、例えば学校のイベントに地域の方がお手伝いをするというものではなく、あくまでも高等学校の教育課程の中に、どのような視点で地域の方々の教育力や、地域が求める人材育成について教育課程に位置付けていくかということです。それらを話し合う場として学校運営協議会がありますので、コミュニティ・スクールについては、学校からの要望、地域が求める人材像、それを具現化するのが教育課程で時間割にどう生かすかということで、互いに意見を言い合いながら、最終的に小中高の12年間を見据えた軸のある教育課程を作ることができれば、地元にとっても、高校生にとっても、しっかりとした力を身につけて、地域の将来を担う人材育成につながるのではないかと考えております。

（松岡特別委員）

○　コンソーシアムを立ち上げたとき、地元に高校を無くしてはいけないという意識はあるため結構意見をいただくのですが、高校のカリキュラムが決まっていることで、地元の方は、高校はあまり変わらないという意識になりすぐに諦めてしまいます。今だと、どこの企業も人材不足で、この間も商工会同士で企業へアンケートしたところ20社以上から採用したいと要望があり、企業説明会を地元で開催する話を高校へ伝えたが、今は難しいと言われ、齟齬というか期待値のずれがあります。

具体的な話なので、指針に盛り込むことではないですが、期待値をはじめから合わせるのが、コミュニティ・スクールを立ち上げる際には重要で、意見を伝えても反映されるのが２～３年後であれば、校長先生が替われば、反映されるかも又変わると思うので、留意する必要があると思っています。

（間嶋部会長）

○　それぞれ個別のケースもありますが、留意しながら進めるということで確認していきたいと思います。どうしても学校職員は異動していなくなるので、学校職員の「風の人」に対しては、地元の人の「土の人」ということで、コミュニティ・スクールの機能も大事になるのかなと思っております。後、論点１についてはよろしいですか。

（間嶋部会長）

○　それでは、論点２一定の圏域単位での高校配置の在り方等を協議することについて、御意見・御質問等ありましたら受け付けたいと思います。篠原委員お願いします。

（篠原特別委員）

○　圏域の単位をどのように整理できるかが難しいところです。また、この指針でどこまで踏み込めるのか、たとえ実行するとして誰がどのように圏域を設定するのか、或いは誰がリーダーシップを図るのかということが難しい点だと思います。現段階の事務局の見解をお聞かせいただきたいです。

（間嶋部会長）

○　事務局からもう少し具体的に明らかになっていることがあればよろしくお願いします。

（岡内道立学校配置・制度担当課長）

● 確かに難しいところはあると思います。一番望ましい形は、通学可能範囲を目安にいくつかの市町村がある中で、その市町村の皆様に参加いただきながら、道教委の尺度だけではなく地元の皆様の考えの中で、よりよい配置や各高校の役割分担を検討いただき、それを配置計画に反映させられるのが一つの理想型だと思っていますが、市町村の皆様に賛同いただき、話し合う場がそもそも設定できるのかというところが課題の一つで、生徒数減少の中、どこかが減らなければならない可能性を考えると、それに賛同する状況はできあがらないかもしれない課題があります。

定員調整についてはある程度やらなければならないため、次の形態として、一定の圏域で、道教委が役割分担を検討、提案して、皆様に御覧いただき検討いただく方法が考えられると思っています。いつ、何をしなければならないのかという点と、どういう方向に持って行くのが望ましいのかという点等、現段階では色々な要素により形が変わってくると思っておりますが、皆さんにお集まりいただき、より良いと思われる方向について御検討いただけるのが一番だと考えております。

（篠原特別委員）

○ 道教委に何か役割があるだろうと説明を伺って感じましたし、私もそういう役割を担う必要があるだろうと思います。私の専門である教育行政学・学校経営論の分野で、鹿児島県の事例で論文が一つあったことを思い出すのですが、複数の市町村で高校配置に関わる協議をしていたが、各市町村の思惑がぶつかり合う中で合意形成に難しさがあり、それを調整する県の役割が重要であるというところが論文の結論でもありました。道教委として高校全体に対し責任を持つという意思で協議の調整に役割を果たしていく、またその仕組みづくりを考えていくイメージでこの論点２を考えていけるといいというのが私の意見です。

（間嶋部会長）

○ 動き出すまでは、道教委の関与が当然必要だということが私も考えておりますが、関与の程度もそれぞれの地域の実態もありますので、その辺りも尊重しながら、少し難しい舵取りもあるかと思いますが、こういう組織を初めて立ち上げるということになると、地域毎の利害の対立もありますので、その辺りの調整役としての道教委の役割も大きいと思っています。一定の圏域単位での高校配置の在り方を協議する場というのは、これから大事になってくる一つの組織だと思っております。いままでは地域別検討協議会の中でそれぞれが意見を述べるに過ぎなかったですが、それを一定の協議会の場を設けるというのは大きな前進だと思っている一方で、ゼロからの立ち上げですので難しさがあると思っております。引き続き道教委の関与の在り方についてもよろしくお願いします。

（篠原特別委員）

○ 今のお話も踏まえての発言になりますが、伊達市、名寄市、岩見沢市等では単一自治体で協議される例がでてきていました。複数自治体は難しいイメージを持つのですが、消防や救急などの行政実務に関しては複数自治体による一部事務組合で運営している例があることを踏まえると、町村同士で協議するこれまでの枠組みを生かすことも一つの手かなと考えます。

（間嶋部会長）

○ 広域の在り方については、先進事例も参考にしながら進める方法もあるという御意見がありました。他、論点２についていかがですか。

資料３

（間嶋部会長）
○　それでは、論点３地域連携特例校の在り方について、御意見・御質問等を受けたいと思います。松岡委員お願いします。

（松岡特別委員）
○　地域連携特例校と協力校の関係で、生徒会などの交流部分が実態としてZOOM等で行うことが一般的になりハードルはないと思うが、生徒数が少ない中で人と人との交流が重要になっており、合同での学校行事には予算措置しているのかという点と、生徒にとって生徒間交流は年１回だと少なく複数回あるのが重要なのかと考えています。
　この会議とは別かもしれませんが、特例校だけではなく生徒が交流する場は重要だと思っていて、大人になると色々な団体があり様々な業界の方と地域を越えて交流し情報交換ができて、私だと青年会議所だとか団体での情報交換がある意味糧となって活動しているため、例えば全道での生徒会があるならそれも絡め、無いならあるといいと考えています。

（間嶋部会長）
○　事務局からコメントありましたらお願いします。

（山城高校教育課長）
●　地域連携特例校について、授業については遠隔でどんどん進めています。特例校は生徒数が少なく、生徒交流が限られるため、協力校との生徒同士の交流として、例えば一緒に芸術鑑賞を行ったり、お互いの生徒会同士で行き来して学校祭をテーマに協議を行ったりしています。予算としては教員旅費を措置していますが、生徒の行き来は実費になっていますので、今後どうあるべきか皆さんと考えていきたいと思っております。特例校は生徒だけではなく、教員数も少なく初任者も多いことから、協力校のベテラン教員との連携、研修を行い、特例校の若手教員への教科指導や助言等にも使われております。
　また、全道規模で生徒会が集まるものと趣旨が異なるかもしれませんが、生徒会サミットとして、深川のネイパル等の施設を利用して、希望する学校が複数集まり、２泊３日で一つのテーマについてディスカッションを行うというのは、ここ数年行ってきております。今後、ＩＣＴ機器の進化が進むに従い、全道規模での可能性につながるものと思っております。

（松岡特別委員）
○　補足ですが、特例校の生徒の教育をどうしていくのかを、（同世代の）委員会のようなものを作り、例えば札幌市内の生徒が、同じ年代の生徒の地域の教育を考えること、地方では部活をやりたいけどできないこと、学校祭の規模などの現状や課題を把握してもらい、把握した生徒が課題だと感じることも、情操教育の面からも良いのかなと思っています。

（間嶋部会長）
○　他、論点３についていかがですか。篠原委員お願いします。

（篠原特別委員）
○　松岡委員の話に賛同します。18歳成人ということで、高校で民主主義の担い手を育てることへの重要な位置付けがより際立ってきたと思えるときに、自分たちが学ぶ環境を自分事として捉えることも勿論ですが、自分たちで変えられる活動へと結びつけてもらいたいし、その機会を北海道が直面する課題と結びつけ、高校生から政策提言してもらい、それを踏まえた行政運

営を行っていくことが、今後の未来社会を考えると重要だと感じました。そういう意味でも機会をどのようにつくるのかを特例校の支援と併せて検討いただけるとありがたいというお願いが一つです。

二つ目は配置の話に関わると思いますが、支援が必要なのは最早特例校だけではないと思っています。望ましい学校規模４～８間口が論点になっていましたが、その規模に満たない高校は教員数も減少し、教育活動も充実できていないところが重大議論だったと思いますが、その前提に立つのであれば、３学級以下の高校には何らかの支援が必要であり、教育課程を充実させるための支援であり、教員配置に関わっても可能な限りだと思いますし、生徒間の交流についても校内に留まらず学校間でＩＣＴを活用しながらどのように充実させられるかが、よりポイントになると考えています。特例校の考え方を今後どうするかという話なので中々難しいところですが、少なくとも教育環境の充実を図るという意味で、現状、特例校に充てている支援の在り方は、もう少し範囲を拡充していく方針にできないものかと意見を申し上げます。

（間嶋部会長）

○　教育条件の整備は、特例校も含めた小規模校への拡大をということでした。事務局からコメントがあればお願いします。

（山城高校教育課長）

●　御意見として伺います。

（間嶋部会長）

○　他、論点３よろしいですか。それでは、論点４地域連携特例校及び離島に所在する高校以外の小規模校への配信について、御意見・御質問等ありましたらお願いします。篠原委員お願いします。

（篠原特別委員）

○　Ｔ－baseを導入したいという要望は、特例校以外の小規模校においても多いです。Ｔ－base自体のキャパシティの問題、配信技術等の向上、運用上の課題はあるかもしれませんが、今後、特例校以外の小規模校への配信について推進する方針であるべきかと思います。一方で、具体的な配信内容については論点が多いかと思います。例えば、必修単位科目等の配信は全てＴ－baseで行い、特色を出したい学校設定科目の自由度を高めるための教員を充実させたりする等の戦略もありうるかもしれません。ただ、それが高校教育の在り方として望ましいかというと論議が必要かと思いますし、小規模校の教科の多くが対面でなくなるのは踏み込みすぎという気がします。範囲についてここでは具体的には指針には盛り込めないと思いますので、今後の検討課題と感じています。

（間嶋部会長）

○　特例校や離島以外の小規模校への配信については、誰に聞いても反対する方はいないし、どんどん充実させていただきたいと思っておりますが、今後検討していく必要があるかと思っております。他にございますか。松岡委員お願いします。

（松岡特別委員）

○　参考意見として申し上げます。私は今大学院で経営学を学んでいて昨年１年間は全て遠隔で授業を受けていました。人的交流は授業内だと難しいですが、授業外で遠隔の交流場所を準備

してくれている人がいて、土曜日は10～17時まで遠隔ルームを作り希望者が集まり自習に取り組むとか、解らないところの教えあいでつながったり、大人は飲み会をやりながらお互いの背景を知り合ったりする、授業外の交流もあるといいのかなと思いました。

（間嶋部会長）

○　私も一時期、不登校児童生徒のオンライン学習の集まりに関わったことがありますが、その中でも、オンラインが正規の授業だけではなくて、例えばオンライン部活とか、オンライン探検学習とか、チャットコーナーとか、学校の機能は授業だけではなく特別活動とか放課後の時間のようなものも保障する観点から考えると、幅広い配信も新たな動きとして正規の授業以外の試みがあってもいいのかなと、私も賛同する立場から要望としての意見とさせていただきます。他、論点４いかがですか。

（間嶋部会長）

○　なければ次に進みます。論点５のＩＣＴを活用した通信教育の在り方について、御意見・御質問等承ります。

（間嶋部会長）

○　なければ私から、論点５は近隣の高校との関わりでの通信教育なのですか。通信制高校を想定したものですか。事務局から教えていただければと思います。

（山城高校教育課長）

●　先ほどの論点４ともつながりますが、今回の指針はＩＣＴを活用した北海道における高校教育の検討のスタートを示したものになっております。各委員からの意見についてもしっかりと検討して、施設設備の問題、お金の問題、人の問題、色々なことをクリアしながら進んでいくことを指針で示す予定です。

　高校が所在しない市町村との連携については、隣同士の町の連携の場合も、札幌の中心にあるＴ－baseから全道に発信する場合も考えられますので、ケースバイケースでどのようにして、高校が所在しない地域或いは離島等の離れた地域でも、同じような教育が受けられるかいうこともこの指針からスタートしていくイメージであり、現時点で「隣の町から行う」とは名言できませんが、様々な場面に対応できるよう検討していきたいと考えております。

（間嶋部会長）

○　さきほどの論点４の議論と重なる部分になるとのことでした。ＩＣＴ活用として広く捉えた高校での通信教育の在り方ですので、御意見や要望もありましたらお願いします。篠原委員お願いします。

（篠原特別委員）

○　今回、浦幌町の近江委員が欠席されているのですが、浦幌町では、高校がなくなった地域の中で地元に在住する高校生たちの地域での学びと、他自治体に所在する高校に通学する高校生たちへどういう教育保障を町で考えてこられています。高校が所在しない地域の様々な選択肢が、この４（高校が所在しない市町村との連携の検討）の話になると、イメージを持ったところです。

　道立の通信制高校として有朋高校がありますが、協力校として全道に定時制課程をもつ高校との連携があり、定時制課程の生徒よりも協力校として受け入れている有朋高校の生徒数の方

が多いという話も聞くくらい実態があると伺っています。地元に協力校もない地域の場合だと、有朋高校の学習、指導、支援を受けられるような施設設置があれば、通学型ではないが地元で社会教育等の充実を担いつつ、高校教育においては地元にいながら通信制課程を受講するような形が、道立においても保障しうるのかなとも考えます。

確認したいのは、道立高校が協力校になっている場合の他に、学習センターの様な形で高校が所在しない地域においても、通信制高校の教育の保障ができているのかということと、今後どういう方向性があり得るのかということです。お願いします。

（間嶋部会長）

○　事務局から回答がありましたらお願いします。

（山城高校教育課長）

●　現状は、協力校のみでの対応です。ただ年々通信制課程の生徒数は増えています。今後も増えるものと予想されますので、国でもサテライトというキーワードを使いながら、数の増える通信制課程の生徒への支援ができるかを国も課題と捉えていますので、北海道においても、委員のおっしゃった社会教育との連携も一つの手なのかと思います。北海道の通信制高校がどのような形で対応していくかというのはこれからの検討課題です。色々とハードルは高いですが、一つ一つクリアしていかなければいけないと思っており、繰り返しになりますが、通信制の支援についても検討を始めていくということを指針で示しているところになります。

（間嶋部会長）

○　サテライトや社会教育との連携とハード面の部分で、先だって浦幌町の近江委員が浦幌町の取組として、高校はなくなったけれども、地域全体が高校教育を担うような形の取組をされた事例発表がありました。これについては時間がかかるかもしれませんが、色々な可能性として興味深い部分がありますので、引き続き事務局において模索していただきたいと御意見として述べさせていただきます。他、御意見よろしいですか。

（間嶋部会長）

○　それでは続きまして「Ⅲ活力と魅力のある高校づくり」について、事務局から説明をお願いします。

（山城高校教育課長）

●　資料６ページ「Ⅲ　活力と魅力のある高校づくり」を御覧ください。国の高校改革を踏まえ、現代的な諸課題に対応するための学習に取り組む普通科における新しい学科等の設置や、総合学科や単位制などの多様なタイプの高校、職業学科など、活力と魅力のある高校づくりに向けた学科の在り方等に係る基本的な考え方と施策の方向性を示しております。

１　全日制課程についてですが、普通科については、ＩＣＴの一層の活用や情報教育の充実といった、生徒の興味・関心、進路希望等に対応する教育活動を推進するほか、異なる学問分野を融合して探究学習を行うことを特徴とした「学際領域に関する学科」や、地域社会が抱える課題の解決に向けた探究学習を行うことを特徴とした「地域社会に関する学科」といった普通科新学科を設置し、地域の特性や生徒の実態を踏まえた特色化･魅力化に取り組むことを示しています。ここでの論点は「学際領域に関する学科の導入の在り方」及び「地域社会に関する学科の導入の在り方」の２つを設定しました。普通科新学科は、学際領域に関する学科は釧路湖陵高校が、地域社会に関する学科は十勝管内の大樹高校が、国の研究指定を受け、令和６年

度の設置に向けて取り組んでいるところです。両校の取組を踏まえ、今後、普通科新学科を設置する学校数の拡大を検討することとなりますが、普通科新学科の設置についての御意見や、留意すべき点等の御意見をいただきたいと考えています。

続いて、理数科や体育科などの専門学科については、引き続き適切な配置となるよう検討することを示しています。

総合学科については、中学校卒業者数の減少などから小規模校化しており、小規模校であっても、多様な科目の選択が可能となるよう、他校の科目についてＩＣＴを活用して履修し単位認定する仕組みの導入や、地域人材や教育資源の活用を推進するとともに、国による教員の加算措置を効果的に活用するなどして教育活動の充実に取り組み、地域の要望や近隣の専門学科の配置状況などを勘案し、適切な配置となるよう検討することを示しています。このほか、アンケート結果から、総合学科の認知度が依然として高くない傾向が見られていることから、地域の中学校等に対する情報発信について、内容や方法の工夫・改善を図ることを示しています。

職業学科については、地域を支える最先端の職業人の育成に向けて、加速度的な変化の最前線にある地域産業界で直接的に学ぶことができるよう、産業界と高等学校が一体となった社会に開かれた教育課程の実現に向けて取り組むことを示しています。それぞれの学科の方向性については、農業科、工業科、商業科設置校については、地域産業の特性等を踏まえた学科構成について検討すること、水産科設置校については、現状の配置を基本とし、生徒の学習選択幅を確保した水産教育の在り方を検討すること、家庭科設置校については、現状の配置を基本とし、入学者数が減少している現状を踏まえ、生徒の興味・関心に応じた学科転換を検討すること、看護科設置校については、現状の配置を基本とし、入学者数が減少している状況を踏まえ、生徒の興味・関心や進路希望等に柔軟に対応できるよう、入学者選抜方法の改善など入学者数の確保に向けた取組を進めること、福祉科設置校については、現状の配置を基本とし、福祉科への入学者数が減少している状況を踏まえ、総合学科における「福祉系列」の設定や、普通科への「福祉類型（コース）」の導入など、身近な学校で福祉を学ぶことができる環境の整備について検討を進めることとしております。職業学科について、論点３から論点５までを設定させていただきました。職業学科は全般的に欠員が多く、充足率が低い状況であり、中でも農業科・工業科・商業科は設置数が多いことから、今後、全道的なバランスを考慮しつつ、これらの学科の配置の在り方について、方向性を示す必要があると考えておりますので、御意見をお願いします。

次に、多様なタイプの高校等についてですが、道教委では、生徒の多様な興味･関心、進路希望等に対応するため、多様なタイプの高校づくりを進めています。はじめに、中高一貫教育校については、６年間の一貫した教育活動を選択できるよう、中等教育の一層の多様化を図ることを目的に設置しており、道内に一体型が２校、連携型が８つの地域で実施されています。単位制については、学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる高校であり、今後も、単位制の課程の趣旨を踏まえ、入学年次にかかわらず、多様な開設科目から生徒が選択履修できる教育課程の編成・実施を一層推進していくこととしています。論点６として「単位制高校の学校規模」を設定しました。単位制では多様な科目を開設するため、１学年３学級以上の単位制高校には、国の加算により教員を多く配置しております。一方、少子化の影響で、一定の規模を維持できない単位制高校が出てきている状況でもあります。こうした状況において、小規模ながらも単位制課程を維持する、学年制に転換し地域の教育資源を活用した特色ある教育活動を展開する、一定規模を維持するために再編を行うなど、いくつかの方策が考えられますので、皆様からの御意見をいただきたいと考えております。

次に、アンビシャススクールについては、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度の育成に重点を置いた学校であり、概要について

記載しています。論点７として「アンビシャススクールの導入」を設定しました。今年度、学校の選択幅の広い石狩管内において、２校導入したところですが、今後の導入の拡大について御意見をいただきたいと考えています。

次に、２　定時制課程・通信制課程についてですが、定時制課程・通信制課程は、夜間における授業や自宅での自学学習など、全日制以外の学習スタイルを求める生徒に対応しており、多様な学習ニーズに応じてより一層きめ細かく対応していくことができるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフの充実や、大学や専門学校等との連携促進など、ＩＣＴを効果的に活用した指導方法等の在り方を検討することを示しております。論点８は、５ページの論点５と同じ内容ですが、通信教育全般について御意見をいただきたいと考えております。

活力と魅力のある高校づくりについての説明は以上です。

（間嶋部会長）

○　事務局から説明いただきましたが、これについても論点に沿って進めて参ります。また、それ以外の部分があれば、最後に伺いますのでよろしくお願いします。はじめに、論点１学際領域に関する学科の導入の在り方について、御意見・御質問を承ります。篠原委員お願いします。

（篠原特別委員）

○　前回会議の際に、学際領域の普通科以外の学科の設置の話で意見を申し上げましたが、事務局から道教委としての考え方が記載されているとおりで、普通科の中でも偏差値序列をつくらないようにと丁寧な説明をいただき、まさにここが重要になってくるだろうと感じておりますので、是非、広報等を打ち出せるようしっかり盛り込んでいただきたいと要望します。

もう一つ、論点にはありませんが、学際領域に関する学科と専門学科の理数科との関係で分からない部分があります。釧路湖陵高校は、普通科と理数科がある中で、従来の普通科に学際領域に関する学科を新設する予定であると理解しています。ただし、学際領域は文理融合で理系と文系を区別するような考え方ではない一方で、その考え方のある学科の学校に理数科があるのが何か矛盾するような気がしていました。理数科自体は専門学科として理数系に特化したカリキュラムを編成できるものだと思いますが、文理融合の方針を打ち出そうとした際に、私の考えがまとまらないところがあります。流れとしては文理融合教育を考えていくことだと思いますが、その際に選択肢として専門学科には意義があるということなのか、やはり文理融合の立場で学科の編成も含めた検討を打ち出すことが望ましいのか、現状を検討しきれていないかもしれませんが、道教委の考え方をお聞かせいただきたいと思います。

（間嶋部会長）

○　事務局から現時点で分かる部分でよろしいので回答をお願いします。

（山城高校教育課長）

●　釧路湖陵高校においては、理数科と普通科の二つの学科があります。理数科においては、スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）として、理数に特化した形で国の指定を受けており理数における探究活動を中心に研究指定を続けています。そこに普通科の学際領域で文理融合型の探究学習とするものです。教育課程が違うため学ぶ内容が少しずつ違いますが、これまで理数科のＳＳＨで培ってきた探究学習の手法については、今の普通科（新学科）においても取り入れて、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間を行っておりますので、いい部分は共有しますが、この部分がどのように進んでいくかはこの後検討が必要だと思っております。

学際領域については、ただ単にレベルの高い大学に入るということだけではなく、将来的に北海道或いは日本のリーダーとして育成するため、グローバルな視点というのはやはり文理にとらわれず重要だと思いますので、釧路湖陵高校では普通科と理数科の生徒がお互い交流できる形が望ましいと考えております。

私どもも課題の一つとして捉えていますので、今後とも御意見いただければと思います。

（篠原特別委員）

○　こちらは別に議論されることを承知していますし、学科の在り方として理数科とどう整理がつくかという質問に対し、整理が難しいと理解できました。ＳＳＨと理数科はそのまま重なるものではないと思いますが、ＳＳＨ自体はサイエンス自体を理数に特化することではなく、より学際的なことを含んでいたのが本来理念であると思います。その理念自体がしっかりと学際領域の新しい新学科に応用されていくことであれば、説明されたイメージが確かに持てると思い伺っておりました。私も引き続き勉強したいと思います。

（間嶋部会長）

○　それでは新学科ということで、論点１、論点２について御意見ありましたらお願いします。

私から一点、学際領域に関する学科と、地域社会に関する学科は少し区別がつきにくいと思っており、例えばＳＤＧｓの勉強であれば、過疎問題を地域社会で行えば、どうしても学際領域との関わりがでてくるので、そうなると２つの学科の差別化という辺りが、やや不明確かなと思います。一方子どもたちの探究で重なることは悪いことではないと思いますので、行政の方でもう少し整理する必要があるのかなと思い、話を聞いてそのような感想を持ちました。

それでは、松岡委員お願いします。

（松岡特別委員）

○　特色ある高校づくりというところで、地域社会に関する学科の地域社会の範囲はどういうものを指していますか。例えば「人口流出を防ぐには」は、ほとんどの市町村が課題だと思います。勝手なイメージですけど、地域社会に関する学科が逆に「人口流出を防ぐには」が大きい過疎の地域だと、特段、特色がない印象をもつのですがその辺を詳しく教えていただきたい。

（間嶋部会長）

○　地域社会に関する学科の押さえとして、事務局からあればお願いします。

（山城高校教育課長）

●　確かに地域社会という言葉だけだと大小様々なエリアがありますが、学校に寄りけりだと考えております。例えば大樹高校については、大樹町の基幹産業でもあるロケット、或いは宇宙をキーワードにしながら地域を学ぶことができ、それをもとにどのように地域活性化に取り組むのかというテーマを設定していきます。先ほどのコミュニティ・スクールとも関わりますが、地学協働でどのようなテーマを設定するかにより、その範囲も変わるものと考えております。今北海道では大樹高校一つですが、この後しっかりとＰＲに努めながら、まちと学校で、何を地域として捉え、何をテーマにして、学校づくりを進めていくかといったときには、地域が大きくなったり小さくなったりするものと考えております。

（松岡特別委員）

○　地域社会という言葉は人口流出とかのイメージだったのですが、ロケットや宇宙産業につい

て学ぶような専門的なことを見込んだ学科にしていくものですか。

（山城高校教育課長）

● 大樹高校は、宇宙工学というよりもロケットや宇宙産業を使った町おこしであって、一つのテーマでも様々な視点で探究活動をすることができますので、大樹高校でも将来、宇宙飛行士になりたいという生徒のために宇宙工学を学べるという科目を実施する可能性はゼロではないと思います。

（間嶋部会長）

○ 松岡委員よろしいですか

（松岡特別委員）

○ はい。また別のところで議論があると思いますので。

（間嶋部会長）

○ それでは論点１、論点２はよろしいですか。それでは次、論点３農業科の在り方について、御意見・御質問承ります。

（間嶋部会長）

○ 無いようですので、後で気がついたらお願いします。次、論点４工業科の在り方についてと論点５商業科の在り方については、一緒に進めていきたいと思います。欠員が多い工業科・商業科の在り方について、御意見・御質問ある方お願いします。

（篠原特別委員）

○ 現在、工業科等の学科を統合していくようなパターンがある中で、専門教育の維持について、学科の統合前後でどれほど機能が維持できてきたのかが分からないため、現状どうだったのかを踏まえつつ、更に統合しても専門教育の維持が期待できるのか、或いは、従来の専門教育が難しくなってきているのであれば、抜本的なことを考えなければいけない段階なのか、状況によって考える方向性が違うのかなというのが私の認識です。

商業科においては、先ほど松岡委員からもあるように、企業側の採用ニーズがあるものの、一方で生徒数の減少と高校側とのミスマッチがあるのかなということもあり、一緒くたに議論しにくいと思っている印象です。

（間嶋部会長）

○ 事務局からコメントがあればお願いします。

（山城高校教育課長）

● 急激な人口減少に伴い、学科数は確実に少なくなっています。例えば一つの学科を丸々無くしてしまうと、それを学びたいという生徒の要望に応えられないこともありますので中身を系列として残すものとして、具体的には配置計画案でお示しした釧路商業高校は既存の４学科を３学科へ転換しましたが、一つの学科をなくすのではなく４つの学びを３つに分けて新しい学びを３学科つくるイメージになります。専門学科についても、例えば、土木、建築、電気等があった場合にどれか１つをなくすのではなく、他の学科でも学べるような新しい学科体制であるなど、教育課程の工夫をしている現状があります。

（篠原特別委員）

○　質問の趣旨は、今お答えいただいたこれまでの再編の実績を見たときに、どのような教育の維持ができていたかということです。例えば評価の話をしたほうがよいでしょうか。産業界からの評価ですとか、或いは先生たちがこのように再編があっても教育上は維持された実感があるとか。

（岡内道立学校配置・制度担当課長）

●　私は実際に高校配置を担当しており地方を回ってお話を伺いますと、非常に悩ましいところがありまして、学科を１つ減らす場合、２つの学科を１つにまとめるやり方もありますし、１つの学科をそのまま落とすやり方もあります。落としてしまう方法であれば学科の専門性という意味、或いは３年間の学習の積み上げという意味では、従前どおりの活動が維持できますので、これは先生方も気持ちそのままに教育を行うことができます。一方で２つのものを１つにまとめると、教員数が２倍でいられるわけではありませんので、担当している先生方にとっては、もう少しやりたいという声はお聞きするところであります。この辺りの選択肢の確保と専門性の確保について、どうバランスをとるのかは、色々お話を伺いながらやっていますが難しいところがあります。

　もう１つ、工業科などの場合は生徒に選んでもらえないという場面もあり、その背景として中学校を卒業するときに、専門性を選択しきれないというのがあると思っております。特に札幌近郊のように何学科もあるような大きいところだと良いのかもしれませんが、地方のように機械だけとか、電気だけとなってくると、選びにくいところがあるので、少し今までの専門性を越えた学科も考える余地はあるのかなと、私の肌感覚ではありますが参考までに申し上げました。

（篠原特別委員）

○　今の話ですごくイメージが湧きました。先ほどの小規模高校の教育課程をどう充実させていくかというところは、専門高校も同じように考え得るのかという意味で、教育機能に悩まれている先生たちに対する支援の方向性についてあり得るのかどうかというのが一つと、産業団体を含めた専門家、技術者の育成、特に地元のインフラ含めて絶対になくならない仕事というものがあるはずで、そのことを地域で育てていくのかどうかということを含めた協議が、先ほどあった圏域での議論、協議の場を踏まえつつ考えていく必要もでてくるのかなというのが、お話を伺った感想になります。方針としてなんと打ち出せば良いのか難しさはありますが、再編はやむを得ないとしつつも、支援の在り方や、専門家、技術者、職業人の育成に関わるかの議論の土台を作るということを、先ほどの議論と関連付けながら、盛り込めると良いのかなと感じたところです。

（間嶋部会長）

○　それでは論点に限らず、専門学科・職業学科全般で何かあればお願いします。篠原委員お願いします。

（篠原特別委員）

○　時間を無視して話していたのですが、本日全ての論点を議論しきれなくても構わないですか。

（間嶋部会長）

○　本日は欠席者も多く、議論される時間的にも量的にもありますので、もし足りないようでしたら、また機会を設定していることも事務局から伺っていますので、できるだけ議論を詰めて進めて参りたいと思います。

（篠原特別委員）

○　それであれば、この専門学科については北海道にとってすごく重要だという意識がありますので、もう少し意見・質問をさせていただきます。

　看護に関する学科と福祉に関する学科に関わり、私が認識している範囲では、近年では生徒募集に苦戦していて、特に看護においては近年は高等教育へと養成が移行しつつあり、それも専門学校というよりも４年制大学に移行していると認識しています。ただその状況で、北海道の医療人材の供給が間に合うのかという悩みもあるだろうと思います。看護だけではなく医療業界全体や、特に過疎地の医療等の人材の確保ということも含めて非常にむずかしい問題です。果たして、高校教育として専門学科を維持することによって地域で必要とされる人材育成に応えているのか、現状、生徒たちの入学傾向、産業界全体の変化について、道教委がどのように認識されているかを伺いたいです。その上でこの方針が今後どうあるべきかを考えなければならないところでしょう。これは福祉科も同じだと思っています。

（間嶋部会長）

○　医療福祉の面でニーズは高まっていますが、これを高校教育でどう対応していくか、学科の在り方も含めての御質問だったと思いますが、事務局から何かありましたらお願いします。

（山城高校教育課長）

●　看護科における定員の充足率も年々減少し、令和２年度は70％まで下がっております。福祉科についても、置戸高校はわずかな入学者しかいない状況で、認識としては、今後も、生徒や保護者のアンケートであるとか、中学生の進路希望の動向、或いは地域の声等をしっかりと聞いた上で、今後、中長期的に学科の在り方を検討していかなければならないと考えております。今、答えられるエビデンスがないため、今後、そういったことに努めていきます。

（間嶋部会長）

○　今後の課題ということで確認したいと思います。他、職業学科、専門学科等に関して何かございますか。

（間嶋部会長）

○　なければ、論点６単位制高校の学校規模について、御意見・御質問をお願いします。

（間嶋部会長）

○　なければ、論点７アンビシャススクールの全道的な導入の拡大も含めまして、御意見・御質問をお願いします。篠原委員お願いします。

（篠原特別委員）

○　アンビシャススクールに関わっての質問ですが、前回の指針の中で方向性が出され、アンビシャススクールが設置されたのがこの間の一つの成果だと捉えております。従来もおそらく札幌白陵高校等で学び直しのカリキュラムを実施した時期があったとか、個別のケースは伺っており、今後も学校独自に科目を設定して学び直しが必要な生徒への支援を追求される例

はあると思いますが、学校の特色としてそれを打ち出し、安心してもう一度勉強がやり直せるというメッセージを発することになると思うと、今回の千歳北陽高校と野幌高校がどう発展していくかを見たいところです。それを受けて、他地域でも推進していくことが望ましいかと考えます。まず２校の取組状況と周囲等の期待を知りたいです。

（間嶋部会長）

○　アンビシャススクールについて、事務局から何かございますか。

（山城高校教育課長）

●　アンビシャススクールにおいては、１年生で中学校時代の学び直しを明確に打ち出して、この２校においても、入学してから夏休みまでの３ヶ月で半少人数指導を実施しており、千歳北陽高校は４学級を６チームに分けて、野幌高校は３学級を４チームに分けて、40人よりも少ない人数で学び直しを行ってきました。さらに50分授業ではなくて30分を一コマとしながら授業を行っていくということで、それぞれの学校で夏休み前にとったアンケートでは、９割以上の１年生が本校で学び直しをしてよかったと回答しており、具体的な声は「中学校時代、分からないまま来て不安だったけれども、ここでもう一回学んで分かることができて、すごくよかった」という声が本当に多くありました。ですので、やはり学び直しを求める高校生は間違いなくいて、学び直しを高校が行うことによって、達成感、満足感、そして次のステップにつながる、そういったことの力になるような学び直しは、間違いなく続けていかなければならないと、２校の取組を見て感じたところであります。成果については現在まとめているところです。

（間嶋部会長）

○　リカレント教育ということで、アンビシャススクールに限らず、どこの高校でもこのような取組はされていることと思いますが、特色として打ち出してきたということで、生徒のアンケートなどからも評価が高くなっているというお話でした。

　他、単位制も含めて、御意見・御質問ありましたらお願いします。

（間嶋部会長）

○　なければ、論点８、先ほどもありましたが、ＩＣＴを活用した通信教育の在り方、定時制も含めて、御意見・御質問あればお願いします。篠原委員お願いします。

（篠原特別委員）

○　定時制課程に関わる質問ですが、13頁に３部制という言葉の記載があり、札幌市立大通高校をイメージするのですが、道立では３部制の定時制高校というのは現状ではなかったのではないかなと思っております。昼間定時はあると思うのですが、この辺りを指針に盛り込むということは、設置を検討していると捉えてよろしいでしょうか。

（山城高校教育課長）

●　現在、有朋高校の単位制が３部制です。

（篠原特別委員）

○　失礼しました、私の誤認識でした。そうしますとこの説明は有朋高校を想定しての話であり、新しく設置を検討するという内容ではないということですか。

（山城高校教育課長）
●　おっしゃるとおりです。

（間嶋部会長）
○　他、定時制、通信制を含めましてありましたらお願いします。

（間嶋部会長）
○　それでは御意見ないようですが、次に進むと12時になってしまいますが、事務局いかがいたしますか。

（山城高校教育課長）
●　ここまでで本日の協議終了として、残りについては次回ということでいかがでしょうか。

（間嶋部会長）
○　これから大きなボリュームのある話なのですが、終了時間が近づいてまいりましたので、次回ということで、委員の皆様よろしいでしょうか。

（委員）
○（了承）

（間嶋部会長）
○　それでは本日の協議についてはこの辺で終えたいと思います。御協力ありがとうございました。本日の議事はここまでということで確認させていただきます。進行に協力いただきありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。

（田原課長補佐）
●　間嶋部会長ありがとうございました。また、委員の皆様には熱心な御議論をいただき感謝申し上げます。次回の専門部会については、できれば今月末の開催に向けて日程調整を進めて参りたいと考えております。委員の皆様には電子メールでお知らせしますので、よろしくお願いします。それでは閉会に当たりまして、学校教育局長　堀本から挨拶申し上げます。

（堀本学校教育局長）
●　改めまして、本日は、素案に関しまして御丁寧に御議論いただき、心より感謝を申し上げます。いただいた御意見につきましては、今後の素案作成に向けた参考とさせていただきたいと思います。

　本日は主に、学校の特色化に向けた教育内容や教育活動を焦点に御議論いただいたところですが、次回は実際に北海道において公立高校をどのように配置していくかという最も大きな視点について、御議論をいただくこととしておりますので、引き続きよろしくお願いします。また、本日御議論いただいた内容も含め、改めてたたき台を読んでいただき、お気づきの点がありましたら、次回の会議でも結構ですし、メール等の様々な機会を通じて事務局へ御意見をいただければと思っております。委員の皆様には引き続き様々な御意見・御議論をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。本日はありがとうございました。

（田原課長補佐）

資料３

● 以上で「第４回北海道教育推進会議高等学校専門部会」を終了します。本日はありがとうございました。